

# あやめ池学園南

## 9 条の会

発行者 太田祐嗣 疋田町5-500-39

### 憲法九条二項を「守る」ことは

# 「現状維持」ではなく「現状の变革」になる

- 品川氏語る -

12月6日、県文化会館に三百人もの参加をえて講演会が行われました。この会是非核の政府を求める奈良の会と「九条の会」奈良が共催したものです。



品川さんは、中国戦線での戦闘部隊の一員として瀕死の重傷を負った体験をもとに語り、聴衆に深い感銘を与えました。

### 戦争を起すのは人間、止めるのも人間だ

戦争と人間の関係についての座標軸をしっかりとってほしい。本当の戦争体験を通して身につけた私自身の座標軸です。戦争は決して天災や地変ではない、ということ。九条は日本の兵士やアジアのおびただしい人民

を殺し、殺された人々の血がしみこんでいる条文です。

紛争を戦争にしない力と紛争を戦争に持つていく力があるが、憲法九条二項は紛れもなく前者の最大の力であって21世紀的な思想です。

国民は二度と戦争はしないと決意した。しかし、支配政党は当時から、一度もそうした決意をしていない「ねじれ」があるということ。今や憲法という旗は、自衛隊を海外派兵するまでポロポロになったが、その旗竿は国民がしっかりと握っています。

### 九条二項をまもる現在の意義は何か

国民投票で国民が「ノー」といえば、過去の保守政権の政治形態を全部否定してかかることになり、内閣の総辞職ぐらいはすみません。日中関係、東北アジアの関係も変わる。日米関係ひいてはアメリカの世界戦略も変えざるをえなくなる。

そういう種類の問題なのです。これからの国民の



出番です。

日本が憲法九条二項を守って「21世紀型の平和秩序」をリードする方向

## 2007 非戦非核のカレンダー

### 木村宥子さんから制作

カレンダーは、新米原市が制定した「非核・平和都市宣言」を借りて創られたそうです。

「遠く海を越えたかなたにも同じ人々のくらしとしかあわせがある」「私たちは生きている核兵器が生きて生けるものすべてを破壊しつくして何ももたらさないこと」この言葉をおもて面に英語と日本語のカリグラフィで書いたものをアレル

に向かえば、これほど大きな世界的な出来事はありません。

私たちはそういう世界的な時に遭遇できたということ。このことは、この時代に生き、切り開いていく者に勇気を与えます。

それが、この運動に参加するわれわれの最大の心の支えではないでしょうか。日本人の力と良心を示

すべき時が来ました。品川正治（しなかわまさはる）

一九二四年神戸市生まれ、東大法卒、現在、経済同友会終身幹事、国際開発センター会長。

日本興亜損保会長を経て、経済同友会副代表幹事、専務理事歴任 著書「戦争の本当の恐ろしさを知る財界人の直言」など

一緒に被害調査のため広島・長崎に入られました。米国立スミソニアン航空宇宙博物館の原爆展が米退役軍人らの反発で中止に追い込まれたことに一

木村宥子さんの父は東北大名菅教授の木村一治さん。戦前から理化学研究所で核研究に携わり、被爆直後の四五年八〜十



月、故仁科芳雄博士らと

がきっかけと語られました。カレンダー作りを始めたのは95年から。1部： 六百元

問合せは事務局まで ※新年発行のチラシ掲載の意見募集中※